

松山城（小原六六庵）

割據海南稱七雄 當年偉構一眸中
二層樓閣聳雲際 道後平原夕日紅

解説 加藤嘉明が築城した当時を追憶し、その雄大な景観を詠んだ詩。

海南に 割拠して 七雄を 称う

語釈 ※松山城Ⅱ松山城は加藤嘉明によつて、築城されたものである。

※海南Ⅱ昔の四国の地名を南海道という。※割拠Ⅱ一方面の土地を勝ち取つて、それに據ること。※七雄Ⅱ織田信長亡き後、秀吉と勝家が決戦を行なつたが、秀吉陣にあつて活躍した七人の雄将をさす。（福島正則、加藤清正、

当年の 偉構 一眸の 中

加藤嘉明、平野長泰、脇坂安治、糟谷武則、片桐且元）※当年Ⅱその当時。※偉構Ⅱ偉大なる建造物。※一眸Ⅱひとめ。※三層Ⅱ三層の天守閣。

※縷閣Ⅱ縷は二階建以上をいい、閣は立派な建物。※雲際Ⅱ雲のきわ、

雲のほとり。※道後平原Ⅱ道後平野。

三層の 楼閣 雲際 に 聳え

通釈 四国の海南に偉容を誇る松山城は、賤ヶ岳七本槍で勇名を馳せた加

道後 平原 夕日 紅なり

藤嘉明が築城したものであるが、当時の大いなる城楼、石垣、門構えなど、いまなお風格を伝えて巖然としている様が、一眸で見渡すことができる。

三層の天守閣は雲をぬきんでて聳え、また・四方を俯瞰すれば道後平野が、夕陽に照らされ、紅に染まり、雄大な景観となつて、遙かに広がつてゆく。